2026年11月13日

各 位

会 社 名　株式会社ラックランド
代表者名　代表取締役社長　笠原　弘和
（コード番号：9612　東証プライム）
問合せ先　取締役ＣＦＯ兼コーポレート統括本部長　坂本　寛樹
（ＴＥＬ：０３－３３７７－９３３１（代表））

# 2026年12月期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年11月13日開催の取締役会において、2026年２月13日付の「2025年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表した2026年12月期（2026年１月１日～2026年12月31日）の連結業績予想を修正することを決議しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．連結業績予想数値の修正

2026年12月期連結業績予想数値の修正（2026年１月１日～2026年12月31日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | １株当たり当期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想（Ａ） | 58,000 | 4,176 | 4,262 | 2,579 | 226.69 |
| 今回修正予想（Ｂ） | 43,000 | 750 | 730 | 500 | 43.72 |
| 増減額（Ｂ－Ａ） | △15,000 | △3,426 | △3,532 | △2,079 | － |
| 増減率（％） | △25.9 | △82.0 | △82.9 | △80.6 | － |
| （参考）前期通期実績（2025年12月期通期） | 56,574 | 4,033 | 4,151 | 2,081 | 201.98 |

２．連結業績予想数値修正の理由

2026年12月期第１四半期においては中東情勢の緊迫化による先行き不透明感が発生しつつも、比較的堅調な受注環境を背景として、期初の連結業績予想を維持しておりました。

しかしながら、2026年12月期第２四半期に入り、円安の継続と中東情勢を背景とした建設資材不足による資材価格の高騰と納期遅延を要因として元請ゼネコンの工事進捗に遅れが生じ、当社が担う工事にも大きな影響が及びました。また、当社が元請となる案件では、こうした資材面の影響に加え、金利の一段高を受けて顧客の投資判断が慎重化し、受注金額が大きく、工期が長い案件を中心に、顧客による発注の先送りが一部顕在化しました。

2026年８月７日付で2026年12月期第２四半期（中間期）連結業績予想の修正をいたしましたが、通期連結業績予想につきましては先送りとなった案件と新規案件の積み上がり状況を勘案して修正しておりませんでした。

しかしながら、以下の要因により、収益への影響を補填できず、この度、2026年12月期連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）を修正することとなりました。

① 複数の物件で着工延期や工事計画の中止が生じ、これらに伴い当社人員が滞留したことで稼働率が低下したこと、及び2026年12月期第４四半期に予定している物件に、他の四半期と比べて利益率の低い物件が多いこと。

この要因による連結業績への影響額は以下となります。

売 上 高：　約13,800百万円の減少

営業利益：　約 3,326百万円の減少

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益の減少に伴い、減少しました。

② 2026年12月期第３四半期連結累計期間において、子会社２社の全株式譲渡を行ったため当該子会社２社が連結対象から除外されたこと、及び株式譲渡損益が発生したこと。

この要因による連結業績への影響額は以下となります。

売 上 高：　約1,200百万円の減少

営業利益：　約　100百万円の減少

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益の減少に伴い、減少しましたが、各段階利益への影響は数千万円程度となります。

なお、2026年12月期の期末配当予想につきましては、１株当たり20円から変更はありません。

（予想に関する注意事項）

上記の予想に関しては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以　上